京易通信

第96号

新年明けまして おめでとうございます

理事長　泰　志龍

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

組合員の先生方、またいつも支えて下さる賛助会員の皆様、名誉理事の皆様、関係諸団体の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

十年ひと昔・・という言葉がございますが、あの東日本大震災から既に１５年。個人的な感覚ではつい最近のことだと感じていたのですが、その後のコロナ禍を経て世の中は随分と様変わりしました。

現代はＡＩ時代。１５年前では思い持つかなかったような速度で進化を続けております。便利になった反面、フェイク動画によるデマ情報も蔓延するという悪影響も出ています。さらにＺ世代と呼ばれる若い社会人達は人との交流を極力避けて生活するようになっているといわれ、これらの事象は私達の業界にも大きな影響を与えています。

人の心の繋がりが希薄なっている今、私達の役割が果たせる役割とはなんでしょうか？「易道」が単なる「占い」ではなく〝道〟と呼ばれる理由、それを共に考え、良き世の中作りに役立てられるよう努めて参りましょう。

皆様におかれましては本年も変わらぬ御交誼・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹んで新年の お慶びを申し上げます

《特別名誉顧問》　伊吹　文明　元・衆議院議長

《名誉相談役》　平山　たかお　京都市議会議員

山本　宗明

《相　談　役》　佐藤　木堂　高野　妙子　井筒　賀園

苑　彰恵　内山　慧泰

『ＡＩ時代における 易道の役割とは』

理事長　泰　志龍

かつて私が少年だった頃の話です。「人間とコンピュータはどちらが賢いか？」という話題でクラスメイト達と激論になったことがありました。「人間は計算を間違うけどコンピューターは間違わないからコンピューターのほうが賢いに決まっている！」「いや、でもそのコンピュータを作ったのは人間なのだから、人間のほうが賢いということでは？」いろいろな意見が飛び交っていたものです。

それから数十年の月日が流れ、コンピュータ技術はその後も目覚ましい進化を続けました。そして現在では「今やＡＩの時代だ」と言われるようになっており、その人工知能技術もここ数年で飛躍的な進化を遂げています。

私は機械についてはトンと疎い人間ではあるのですが、知人に「Ｇｅｍｉｎｉ」や「ＣｈａｔＧＰＴ」の使い方を教えて貰い、試しに文章を打ち込んでみました。すると、まるできちんと感情を持った人間であるかのように返事をしてくれるのです。本当に驚きました。

やはり「人間は間違うが機械は間違わない、だからＡＩの占いのほうが信頼出来る」という理論を唱える人は一定数存在しますね。例えば四柱推命などの「命式」だったり西洋占星術の「ホロスコープ」などを手作業で作成すると、表の見間違いや記入ミスが起こる可能性がありますが、機械であればその心配はありません。しかもデータ分析も完璧にこなすでしょうし、常に統計的な最適解を導き出してくれるでしょう。その意味での安心感はあると思います。

問題は、占い師の仕事というのは「当てること」と「アドバイスすること」だけではないというところですね。例えば、お客様の中には、失恋の痛みを抱え「辛い気持ちを打ち明けたい」「導いて欲しいよりもまず寄り添って話を聞いて欲しい」という精神状態でお越しになる方もいらっしゃいます。そんな場合ＡＩ占いだと、いかに感情があるかのような受け答えをしてくれたとしても、所詮は機械・・。無機物に悩みを聴いて貰っても果たして癒やされるだろうか？という疑問が残ります。

私は、占い師が占わせるという状況というのは、例えるならば、野球の公式試合で人間の投手の代わりに超高性能なピッチングマシーンをマウンドにおいて試合をするようなものです。スポーツ観戦の楽しみというのは、勝ち負けだけではなく、人と人との魂や意地のぶつかり合い、頭を使った駆け引き、またそこから生まれる心の交流、人情的な部分まで含めて熱い気持ちを感じられることにあるのではないかと思っているのですが、機械が相手となると、マシンの投げる超速球や正確無比にコントロールされる変化球を打とうと努力や工夫を重ねる選手の姿を楽しむことは出

この技術は、私達の仕事にも大きな影響を与えることは間違いありません。既にネット上では「ＡＩ占い」のコンテンツが沢山出回っています。「ＡＩを使った集客」というのは勿論ですが、もはや占い師は占いをせず、ＡＩに答えを出させてそれをお客様に見せるだけ・・

来ても、そこに心の交流というものが生まれない分、どうしても感動を感じにくくなると思うのです。

ただ、ここで別な意見も紹介しておきましょう。「AIの知識は元々は人間の知識を集約して機械に学習させたものである」というこ とから「機械とはいえ人間の魂が篭もっているもので ある。だから、無機質なものとしても毛嫌いすることもないであろう。」という見解もありました。そうですね、それもまた真なりといえるでしょう。

このような話を耳にしました。最近日本では「ChatGPT」のことを「チャッピーちゃん」と呼ぶのだそうです。しかし、このような呼び方をするのは世界中で日本だけなのだとか。「八百万の神」の思想を持ち、万物に魂が宿るという感覚を理解する日本人だからこそ、相手が機械であっても人間として向き合ってしまう。思えばもう随分前になりましたが、小惑星探査機「はやぶさ」が最後の任務を終えて大気圏に突入し燃え尽きた際に多くの人が涙を流したという出来事を思い出します。そのような事象の裏には科学者、技術者達が、はやぶさを我が子のように扱い向き合ったという背景があったと思います。すなわち相手が機械であってもまるで人化して感情移入してしまう性質を持つ日本人は、導入に関しては後進国と言われながらも、一旦向き合ってしまえばAIという非常に高いものに対する親和性が非常に高いのではないかと思われるのです。

それに加えてリアルでの対人接触が苦手あるいは不慣れな若者が増加している現代社会ならば、占いも「AIで充分」と考える人が一定数以上出てくることも不自然なことではないと考えられるのです。人間関係に疲れていたり、傷つけられてトラウマを抱えているようなおさら人でああれば、なおさら生身の人間より機械に相談するほうが安心かもしれません。

しかし、それでも私は人間の占い師は必要だと思っています。以前に、音声合成ソフトであるボーカロイドが流行し始めた際に「そのボカロイドでも人間の歌手が居なくなることはない」と申しました。実際その通りになっていると思いますが、それと同じことではないかと思うのです。

「人を傷つけるのは人である。しかし、人を癒やすのもまた人である」

もちろん時代に適応、対応することは必要です。AIの活用はどんどん取り入れていけば良いかと思いますが、ただ私は完璧な答えよりも、リアルな温かみ、ぬくもり、そういったものを感じて貰える占い師でありたい。「不易流行」変化の中にあっても変えてはいけない精神がこの世界にはある。そのように思っています。

『令和八年の新年に思う』

副理事長　清水　泰帆

新年明けましておめでとうございます。皆様お元気で新しい年をお迎えのことと存じます。

去年には日本で初めての女性の総理大臣が誕生し、政治の新しい風が起こりました。SNSもとても頻繁に話題を提供し、特に若い世代が政治に目を向けて発信をしていただいたことが、とても頼もしく私も読ませていただいております。

今年の四柱推命は丙午、五行は共に火行で、とてもエネルギーを強く感じます。九星気学は知性と順応の星、一白水星が中央に座し、苦労と困難を暗示しております。しかしながら、そのような年でありましても、丙午の明るさで去年とは違う幸せな今年であって欲しいと願うのは私だけでしょうか？激動の去年からパワーアップする始まりを予感いたします。

ロシアとウクライナの戦争は中々終わりが見えず、ロシアの一方的な支配が強く、民を思う気持ちより自国の領土を増やす無理を通すことが、この戦争を中々終わることができないことのように私は思い、本当に辛いですね。そのような中でもウクライナ出身の相撲界の安青錦関の活躍は、日本の皆様もきっと応援をしておられると思っております。頑張っていただきたいです。そしていつも思うことは一日も早く戦争を終わらせ、安定と平和を心から切に望んでおります。

現在の日本では人手不足が起こり、AIも当然必要ですが、都会も田舎も外国人の労働力の受け入れを必要としていると報道でも伝え聞いております。

ここで一つ問題ではと思うことは、担い手確保に喘ぐ地方の経営者は外国人受け入れを評価する一方、賃金の高い都市部へ外国人の就職が集中する懸念が残り、政府が進める外国人政策厳格化の両睨みとなっていると新聞に掲載されており、先行きの不安が感じられます。

京都府易道協同組合では、手相教室、手相検定と大仏竜鳳先生のもと泰志龍先生が中心で手相実行委員会を立ち上げ、組合員様の手相鑑定力をアップするため進めております。実際に検定合格者の証書もお出ししております。手相鑑定がさらに一歩前進し、ご依頼のお客様のこれからが少しでもよく進んでいかれることを切に願っております。どうか皆様もチャレンジをして頂ければ嬉しいです。

今年のこの一年が、皆様にとりまして健康で幸せな一年になりますことを心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきたいと思います。そしてまた皆様にお会い出来ますことを楽しみに致しております。ありがとうございます。

『新年の御挨拶』

理事　本城　聖象

あけましておめでとうございます。

令和八年丙午歳、皇紀二六八六年、西暦二〇二六年の聖寿を数えさせていただきました事、皆様とともにお喜び申し上げます。

昨年は、日本におきましても、憲政史上初の女性総理大臣が誕生し、「働いて、働いて、働いて、

私ごとで恐縮ではございますが、以前、大仏先生に手相の鑑定をしていただき、目を大きく開いて今までに見たことがない手相ですと言っていただき、大いに気を良くして、これからの人生の指針に出来ればと、とても嬉しかったです。大仏先生、この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

働いて参ります」と言う言葉が流行語になりました。

誕生後は、あっという間に、ガソリン税暫定税率の廃止をはじめ、様々なこれまで積み上げられてきた諸問題を次々と解決してゆき、スピード感と責任感を感じられる政策を次々と解決していかれる姿は、本当に心強く、頼もしく感じられます。

財務省が主導で行っていた、緊縮財政への方針転換は、積極財政とは異なり、国民にとっても、前向きに新しくチャレンジしようとする気持ちを湧き上がらせてくれます。

これは、我々も見習わなければなりません。会社から得る給料での生活がままならない。年金が少ないから生活が苦しい。と言った声は、オールドメディアの戦略によって、毎日のように聞かされます。

与えられたものの中で生活しようとすれば、その状況が変わった時に、大きなダメージを受けてしまうのは、当然のことです。

大切なのは、自分がいかにすればそれを乗り越えられるか。を考えることです。その為には投資をする人もいるでしょう。資産運用をする人もいるでしょう。こういった自分の将来、未来を考えて種まきをするからこそ、将来にその実がなるのです。

これは釈尊の教える、「因果」の道理であり、これは覿面なのです。因があるから果がある。我々が占いをする時も、現在の状況を見るためには、必ず、相手の過去を探ります。あるいは、考え方、価値観などを見て行けば、おのずから、現在の状況を正しく見て行けば、未来は必ず予見できます。

すなわち、過去、現在、未来は、それぞれある日突然に生じるものではなく、一本の繋がった線上に、起こるべくして起こっているのです。そして、それを維持するためには、大きな方向転換をしないこと、これは、釈尊の言う「中道」の概念です。

極端な生き方をするのではなく、真ん中を生きる。これが簡単なようでいて、難しい所なのではないでしょうか。

しかし、逆に言えば、このポイントをわかれば、心はおのずから安定し、不安や苦しみが生じる隙などは生まれてこないのです。

確かに世の中には、思い通りにならない事は多くあります。しかし、それは、思い通りに自分の意見を通そう、自分の我を受け入れさせようとしてしまう、人の持つ側面なのです。

若い人がよく、「私は●●だから」「わたしはこうだから」と言います。しかし、その生き方を通そうとしたら、必ずどこかで行き詰まります。当たり前です。

自分の言う事は聞いてほしい、しかし、人の言う事は聞きたくない、では、都合が良過ぎます。

中には、過去の総理大臣のように、「私は聞く耳を持っています」と言いながら、まったく聞いてない人もいます。

これは、我々易占の道に携わるものも、戒めなければならないところで、「こうしなければならない」「私の言う通りしないと、地獄に堕ちる」と言うような考え方では、人は誰もこちらの言う事は聞いてもらえません。

この世はお互い様。相身互い。と言う言葉があります。こちらも相手の言う事を聞くからこそ、相手もこちらの言う事を聞いてくれるのです。

黙って俺について来い。などと言う言葉が、昭和ではありましたが、今の時代では通じません。

亭主関白、昭和の男が家庭の事は何もしない。その

かわり文句だけは人一倍。という事は誰しも経験をしているのではないでしょうか。

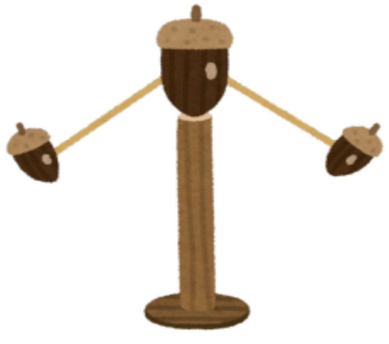
釈尊の説くような、人間の本質は時代を経ても変わりませんが、価値観や考え方は、アップデートをして行かねばなりません。

その為には、一方的に与えられるのを待つのではなく、自ら考え求めなければならない。そんな時代に変わってきています。

安定、安穏を求める姿勢は大切です。人間だれしも、不安になりたい人などいません。であれば、その安定とは、何もしない、とイコールで無い事を知らなければならないでしょう。

先ほどの中道の理論に戻りますが、考えるだけ、不安に落ち込むだけ、でも良く無いですし、何も考えないのも良く無いのです。

中道とは何でしょうか。と聞かれた時に、私はよく「やじろべえ」の例えを用います。人間生きている以上、片一方に大きく振れる時は必ずあるのです。



その時の対応の仕方が、多くの人は下手くそなのです。「やじろべえ」は、片一方に大きく振れた時、反対側に大きく振れるのです。

そうしてだんだんその振り幅が小さくなり安定してゆく。このバランスのとり方が大切なのではないでしょうか。

その時に、間違えてはいけないのは、反対に振る事です。

気持ちが落ち込んだ時は、気持ちが上がる事をする。重い時は軽く、急いている時は、ゆっくりする。という反対の事を心がけなければなりません。

落ち込んだ時に、急いてしまったり、重い時にゆっくりする、という、反対でない事をしてしまうから、物事が解決しないのです。

世の中は、陰陽です。陰の時は、陽。陽の時は、陰。こういう単純な思考の積み重ね、バランスの取りあいが、安定につながるのです。

そして、易占の現場で一番大切なのが、この安定ではないでしょうか。こちらが、不安定で、偏った考えで易占を行うと必ず、間違った結果、間違った判断が生じてしまいます。

常に自分が今どういう状態か。緊張感を持って注視しておかねば、些細なひと言、出来事で影響を受けてしまいます。その時には、「やじろべえ」を思い出してください。

時代が大きく変わろうとする、こういう時に、我々はなぜ易占を行うのか、その道に携わるのかを、初心を思い出し、御縁のある方が幸せになって頂けるお手伝いをしていこうではありませんか。

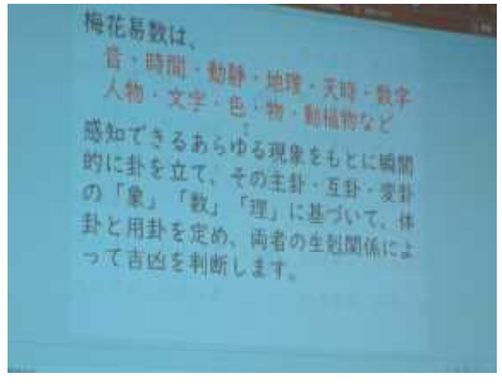
今回の原稿は、ちょっと、普段の知識を増すお話ではなく、根源的な私なりの占いへの考え方をお話しさせていただきました。

理事長先生には、年末から、何度もお問い合わせいただき、年明けにこの原稿を書いております。相変わらずの遅筆な遅刻魔な事を心からお詫び申し上げ、本年一年の始まりに当たっての原稿とさせていただきます。

合掌

《行事写真》

☆九月八日。オータムナイトセミナーにて。（於・キャンパスプラザ京都）



↑講師を務めて頂いた、一般社団法人・日本易経協会代表理事　易海　陽光　先生

←御講演『時間と空間に秘められた運命――梅花心易の世界』

☆十一月十二日。組合慰霊祭開催。（於・霊山観音）

☆十二月十七日。組合定例役員会議とその後の懇親会の模様。

組合だより

行事報告

◇十月二十六日（日）キャンパスプラザ京都にて秋期研修会オータムナイトセミナーを開催しました。一般社団法人・日本易経協会　代表理事　易海　陽光　先生による『時間と空間に秘められた運命――梅花心易の世界』の御講演を頂き大変好評を博しました。

◇九月十四日（日）大阪・國民会館で開催されました日本易学連合会・近畿支部様の秋期研修会に泰志龍理事長が出席致しました。

◇十一月十二日（水）霊山観音において組合物故者慰霊祭が営まれ亡き先達諸先生方の追善供養を行いました。法要後には、がんこ三条本店において懇親会を行い先達の遺徳を偲びつつ参加者相互の親睦の場を持つことが出来ました。

◇十一月十二日（土）ホテルアウィーナ大阪にて開催されました、子平館様の研修会および懇親会「子平祭」に泰志龍理事長が出席致しました。

◇会計からのお願い

令和七年度年会費（一万三千円・名誉理事は一万円）が未納の方は左記へお振り込み又はご送金下さいますようよろしくお願い致します。組合費二年間未納の場合は名簿整理上、理事会の承認を得て除籍致します。

振込先

ゆうちょ銀行　四四八支店
口座番号　記号１４４９０－３
　　番号４９１７００１１
※他の金融機関から送金の場合
（店名）四四八「ヨンヨンハチ」
（店番）４４８
（預金種目）普通預金
（口座番号）４９１７００１
口座名義　京都府易道協同組合

送金先

〒六〇四－八二〇三
京都府京都市中京区衣棚町
５３－１－４０４　加藤方
京都府易道協同組合　理事
会計担当　泰井　泉映

◆会計宛メール◆
k2-zorra@docomo.ne.jp

《編集後記》

十年ひと昔・・という言葉がございます。

AI等の科学技術の発展は目覚ましく、様々な仕事の効率化上昇に寄与しています。それはある意味では大きなメリットではありますが「タイパ・コスパ」という言葉が流行しています、ようにタイム&コストパフォーマンスつまり効率だけが重視され心のこもらない無機質な仕事が増えてしまいます。という危険性もはらんでいます。とはいえ郵便料金も大幅に値上がりしペーパーレス化の促進も考えねばならない情勢になっていると感じますので、組合ホームページをさらに活用して頂けるように取り組んで参りたいと思います。

通信未投稿の方も是非続いて頂き、業界に関することから近況報告まで内容問いませんのでどしどしお寄せ下さいませ。楽しみにしております。

本年も皆様の御健勝御多幸を祈念致しますと共に、組合活動への御理解と御協力をお願い申し上げます。

泰　志龍

京易通信［第九十六号］
発行者　泰　志龍
発行日　令和八年一月一日
発行所　京都府易道協同組合
所在地　京都市山科区御陵
　　血洗町２５の１１
電　話（〇七五）五八一－七六七一